

大楠



図書館キャラクター「ひと」

48
2011 April
[平成23年4月]

Kumamoto Gakuen University
Library Bulletin

O a k s



一番身近な
情報源

新聞を
読もう！

特集

あなたは毎日、
新聞を読んで
いますか？

Contents

- ① 館長エッセイ
- ② 特集「新聞を読もう!」
- ⑤ News News
- ⑦ Information
- ⑧ Library Data 「平成22年度利用統計」
- ⑨ 図書館の現状—学習環境・学習支援— 津村 秀夫
- ⑩ Staff column 北原 かおり／図書館シネマのお知らせ

新聞と読書



● 村松 茂美
Muramatsu Shigemi

経済学部教授。
2008年1月より図書館長。
[専門分野] イギリス社会思想史

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。

大学生であれば新聞ぐらい読みましょう。ということで、今回の特集テーマは「新聞を読もう」ということです。社会でおきた出来事に関心をもたなければなりません。商学も、経済学も、社会福祉学もすべて社会の出来事を対象とした学問です。語学もまた広い教養を必要とする学問だと思います。

とはいえ、新聞を読むことには注意が必要です。そこに社会の出来事がすべて書かれているわけではありません。社会には無数の出来事(事実)が存在します。新聞で知ることができるのは、そのごく一部でしかありません。無数の事実のなかからなにを選び、なにを新聞の記事としてとりあげるか、そこにはある特定の新聞の見方・立場というよりも、その時代の関心のあり方が反映しています。のちの時代に、かつて無視された事実が、ことなる関心から「再発見」されるということはよくあることです。

さらに「事実」の結びつけ方にもある立場があらわれます。「あの店のラーメンは安い」、「あの店のラーメンはまずい」。このふたつの事実を、「あの店のラーメンは安いがまずい」と結びつけられ、「私・僕はもういかない」という立場の表明であり、「あの店のラーメンはまずいが安い」と結びつけられ、「僕・私はまたいく」という立場の表明になります。「事実」のみが語られているかのようにみえる新聞も実は同じなのです。こんなことを言えば、新聞など恐ろしくて読めないと思われるかもしれませんが、しかし、ひとの書くこと、話すこと(むずかしい表現をつかえば、「言説」)にはすべてひとつの立場が表明されているのです。重要なことは、いろんな言説がそれぞれある立場・見方(さらに言えば「世界観」)を基礎として理解すること、そして自分自身の世界観をふくめ時代特有の世界観の歴史性—時間のなかでたえず変化していくものという意味での歴史性—を理解することだと思います。そしてこれは本を「古典」として読み深めることによつてはじめて可能です。古典とは本の古さをきそうものではなく、当然のこととしてうけいれてきたものの見方、考え方に根本的な疑問を提起してくれる書物です。それは社会科学の書物である場合もありますし、文学作品である場合もあります。読み手次第なのです。こんなことを教えてくれるのが、内田義彦『読書と社会科学』(岩波新書)です。さきのラーメンの例も、内田氏がどこかで—どこであつたかは忘れましたが—使っていた例でした。「古典」として本を読み深めながら、新聞を読みましょう。新聞を読みながら、古典として本を読み深めていきましょう。

熊本学園大学図書館は皆さんの来館をおまちしています。



Kumamoto Gakuen University
Library Bulletin
O a k s

Oaksとは…

当館のシステム名称、**Oe Aoba Kumamoto Gakuen University Library Information System**の略です。本学の立地場所は、奈良飛鳥時代の古墳群の上に築かれ、この地を考古学上では、「大江青葉遺跡」といいます。Oaksとは、榎の木のことですが大楠(おおくす)ともなります。

本学には、創立当時から風雪に耐え我々を見守ってきた高さ20m、幹回り4~5mに達する県木でもある緑豊かな楠の大木が数本あり、歴史の古さを象徴しています。これら歴史ある地と天高く聳え大地に大きく根をおろした大楠のように当館電算システムと学園の発展を願って命名しました。

あなたは毎日、新聞を読みますか？

新聞は、社会の出来事の報道・解説・論評をすばやくかつ広く伝えるための定期刊行物であり、毎日発行されるものが多く、インターネットやテレビ、ラジオと同様に身近な情報源です。

また最近では「NIE=Newspaper in Education」“教育に新聞を”の活動も活発に行われており、新聞は単にニュースを知るだけではなく、読解力の向上にもつながるといふ点でも注目されています。

大学の図書館には、毎日発行される地方紙⁽¹⁾、全国紙⁽²⁾はもちろん外国の新聞や長期保存用として縮刷版、マイクロフィルム、また求める記事が簡単に探し出せるデータベースなど、さまざまな形態の新聞があります。

今回は、熊本学園大学の図書館でできる、新聞の活用方法を紹介します。

(1) 地方紙：限られた地域を対象として編集・発行される新聞

(2) 全国紙：全国を対象として編集・発行される新聞

新聞を 読もう！

特集



図書館で
読める新聞は
こんなにあります！

1階

新聞コーナー

当日読める新聞

- 朝日新聞
- 毎日新聞
- 読売新聞
- 日本経済新聞
- 熊本日日新聞
- 西日本新聞
- 産経新聞
- 日経産業新聞
(月～金曜日発行)

地方紙 (1日遅れ)

- 大分合同新聞 (大分県)
- 佐賀新聞 (佐賀県)
- 長崎新聞 (長崎県)
- 南日本新聞 (鹿児島県)
- 宮崎日日新聞 (宮崎県)
- 琉球新報 (沖縄県)

2階 ● 外国新聞

新聞を
読もう！

時事問題に強くなる？！

就職活動に役立つ！



新聞を読む習慣を

経済学部国際経済学科 4年 松岡由貴

私 は、就活を機に新聞を読む習慣を身につけましたが、新聞は情報の宝庫だと思います！

話題の情報はもちろんのこと、就職内定率など就活生に欠かせない情報が満載です。また、『読む』ことで文章力アップに繋がります。更に、各新聞社によって記事の書き方にも特徴があるので、それぞれ見比べてみると楽しいですよ。読売新聞と朝日新聞とでは同じ民主党に関する記事でも、書き方は全く異なります。

とにかく、新聞は就活生の強い味方なので、是非とも読む習慣を身につけることをオススメします。

新聞の有用性

外国語学部東アジア学科 3年 永野文香

私 は小学生の頃から、毎朝欠かさず熊本日日新聞一面の「新生面」を読んでいる。国内外の政治や経済、文化、人生についてまで幅広く取り扱ってある。新聞を読むことで物事を多面的に考えるくせがついたり、文章の書き方のヒントを得ることもできる。情報の量と質、どちらも兼ね備えている新聞の有用性は、非常に高い。

11号館1階にも「新生面」の切り抜きが置いてあるので、情報収集能力を高めるためにも、ぜひ活用してほしい。

新聞を
読むと、
どんな
いいことが
ある？
Q U E S T I O N



レポート・論文の情報収集ができる！

テーマによっては、新聞記事は貴重な情報源です。また、新聞記事からヒントを得ることもできます。

英語も新聞も身近なものだから

外国語学部英米学科 4年 中村裕佑

私 は図書館の新聞は語学力の向上にとっても役立つと思います。英米学科では神本教授のReadingⅢ ReadingⅣの講義で課題として英字新聞を読む機会があり、それから時々英字新聞を読むようになりました。最初読んだときは全く意味がわからなかったのですが、すぐ近くにある日本語の新聞と照らし合わせながら読むことで、「英語が読めた!」という達成感を得ました。今後はもっと本格的に英字新聞を読めるようにになりたいです。

外国新聞を読んでみよう

雑誌係外国新聞担当 岩下萌

私 は業務上、毎日外国新聞を見ている。ですが、残念なことに言葉が分かりません。英語ならまだしも、他言語の新聞は多くの人が読めないのではないのでしょうか。

日本の新聞でも署名記事がありますが、外国新聞では特に目に付きます。記者の方が自信とこだわりを持って書いているのだらうと推測しながらも、読めないままページが過ぎて行くのをもどかしく感じます。また、斬新な広告や写真、掲載されているイラストも美しいものから社会や政治を皮肉ったものまで、とても興味を引かれます。

読めなくても楽しい、けれど読めたらもっと面白いはず。まずは辞書を片手に英字新聞から始めたいと思います。

データベースを活用しよう

熊本学園大学の図書館では、下記の5つの新聞の記事が検索できます。

- ◎朝日新聞(1945-)
- ◎毎日新聞(1987-)
- ◎読売新聞(1986-)
- ◎熊本日日新聞(1988-)
- ◎日本経済新聞(1975-)

新しいものは新聞の紙面を画面上で見ることがもできます。



他にもこんな新聞があります

●縮刷版

通常の新聞の紙面を縮小し、本の形態にしたもの。一カ月を1冊にまとめてあります。



●マイクロフィルム

紙面を縮小撮影したフィルム。国内の古い新聞から、外国の新聞もあります。フィルムを見るには専用のマイクロリーダーという機械を使います。



新聞を読むことで 世の中への 理解力をつけよう

社会福祉学部教授 守弘仁志

新聞は今やもう情報の早さでは放送やネットにかなわなくなっていました。また、若者の新聞離れもよく言われるところです。しかし、試みに毎日しばらく新聞を読んでみてください。たとえば、朝刊を読む習慣をつけ、限られた時間の中でもひと目見出しを見るだけでも、とりあえず「現在の世の中」を理解することができます。さらに興味のある記事を読み進むことで社会への理解はさらに深まります。また、新聞は一週間、あるいは一ヶ月ぐらいたって読み返すと「現在、人々に関心を持たれているこの問題はこのような形で発生したのか」や「当時、ある事件の推測された原因で当たったもの、外れたものはどれか」など過去にさかのぼって「原因と結果」を時系列で理解することもできます。このように新聞を読むことが、大学生としての物事への理解力を高めてゆくと思っています。

1 4月から電子ジャーナル「EBSCOhost」、 「EBSCO A to Z」を導入しました

こんなメリットが・・・!

利便性の向上に加え、情報へのアクセスが迅速に行えます。また学内LANに接続されているすべてのPCで文献検索ができ、かつ、文献をその場でダウンロードできます。アクセス数は無制限でゼミを行う教室でも有効活用できます。図書館のホームページより利用できます。

Academic Search Premier

社会・人文・自然科学・医療・デザイン・
コンピュータなどの分野を幅広く網羅
(全文掲載4,600誌)

〈検索画面〉



Business Source Premier

経営学・経済学・金融・会計・国際貿易などのビジネスにおける主要な分野を幅広く網羅
(全文掲載2,100誌)

さらに、この6,700誌をキーワード等の検索だけではなく、誌名のA-Zまで順に閲覧できる「EBSCO A to Z」も合わせてご利用ください。
※掲載遅延期間(1ヶ月～12ヶ月)が設定されているタイトルも含まれており、最新号の目次や抄録は見られるものの、最新号の全文が見られないこともあります。

2 平成22年度 学生懸賞論文審査結果発表

平成22年度の学生懸賞論文には昨年(16篇)を若干下回る13篇の応募がありました。今回も例年どおり9月末の締切りから11月にかけて入念な審査が行われました。その結果、特選、入選のいずれにも該当する論文はみられず、佳作4篇という厳しい審査結果となりました。さらに今年は応募者のうち1名が1年生で他はすべて卒業年次というこれまでにない状況がみられました。例年、数名の2、3年生の応募がありましたが、今回はひとりもありませんでした。このことが応募数や審査結果に微妙に影響を与えているのかもしれません。

なお表彰式は12月15日に図書館4階の会議室で行われ、村松館長から講評が述べられたあと一人ひとりに懸賞金が授与されました。また参加者全員での写真撮影も行われました。その後は式に参加した同じゼミの友人たちと歓談したり、一緒に写真に納まる光景も見られ、和やかな雰囲気の中に終ることができました。

今回、入選以上の入賞者がいなかったことはたいへん残念なことです。次回はたくさん入賞者が出ることを願って、皆さんの奮起に期待したいと思います。



特選 入選 該当者なし

佳作
(4篇)

- 坂田貴美子 (経営学科4年)
手段としてのCSR ～「義務」と「責任」の混合～
- 松本莉沙 (経営学科5年)
新規学卒一括採用と日本の経営
— 日本の経営における新規学卒一括採用の役割 —
- 藤井雄太 (経済学科4年)
世代間で危険選好性の違いが見られるのか
- 吉田由貴 (子ども家庭福祉学科4年)
発達に困難のある子とその周りの子の集団保育

3

「機関リポジトリ」講演会を開催

「機関リポジトリ」講演会が『今日から始める「機関リポジトリ」』と題して2月24日午後1時30分から図書館地下AVホールで開催されました。別府大学附属図書館長石井保廣氏を講師に迎え、教職員40名が熱心に聞き入りました。

「機関リポジトリ」とは、大学や学会などで出版された紀要や雑誌、報告書などを電子化・蓄積し、原文を含めインターネット上で閲覧可能にするシステムです。

講演では、いまなぜリポジトリかをアカウンタビリティや大学ランキングと各種調査の観点から述べられ、構築がすすんでいない私立大学において先進的に取組んでいる別府大学の状況と効用が紹介されました。

本学でもこれを機に「機関リポジトリ」についての理解が深まり、議論がなされることを期待します。



4

データベースを追加しました

●The Making of the Modern World: Goldsmiths'-Kress Library of Economic Literature 1450-1850 (同時アクセス制限なし)

15世紀半ばから1850年までの経済史・経営史・社会思想史を中心とする社会科学関係の書籍、定期刊行物が収録されています。

フルテキストでの検索が可能です。

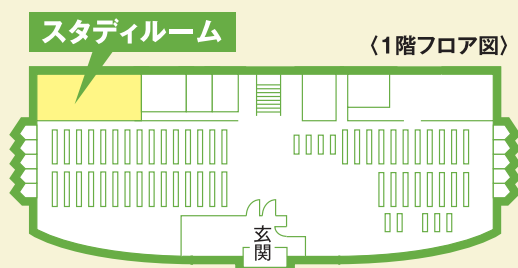
また本学にはマイクロフィルム版も部分的に所蔵しています。

5

スタディールーム内での水分補給を認めます

4月より1階スタディールーム内に限り、飲み物の持ち込みと補給を認めます。指定場所以外では飲み物はバッグの中に入れてください。食べ物（飴、ガム等を含む）は厳禁です。上記項目が守られない場合は、再び飲食禁止になることもあります。

ルールを守って皆で快適な学習環境を作りましょう。



持ち込み可

密閉できる容器に入った飲み物
(水筒、ペットボトル、キャップ付きの缶)
※ただし、匂いの強いものは不可



持ち込み不可

密閉できない容器に入った飲み物
(紙コップ、紙パック、キャップの無い缶等)

[図書館からのお知らせ]

→ 本学学生

平成23年度

学生懸賞論文募集!

テーマ
自由論題

【応募期限】

平成23年**10月31日(月)**17:00

受付期間:平成23年10月24日(月)~10月31日(月)

期限
厳守

応募資格 ● 本学学生(大学院生、研究生、科目等履修生を除く)

提出先 ● 図書館4階 事務室

審査方法 ● 図書館委員会と図書館委員会の委嘱による
専門教員の審査に基づき決定する。

懸賞金 ● 特選=賞状 および 賞金10万円

入選=賞状 および 賞金5万円

佳作=賞金2万円

奨励賞=図書カード5千円

※ 上記に該当しない場合は参加賞として 記念品を贈呈する。

入賞発表 ● 平成24年1月中旬(予定)

(1) 館内掲示板ならびに図書館ホームページ等
にて「論題・所属・氏名」を発表する。

(2) 入賞者(特選・入選)の論文は、「学生懸賞論文集」
として発行する。

表彰式 ● 平成24年1月中旬(予定)

表彰式及び入賞者(特選・入選)の報告会を開催する。

■応募の注意

- ①応募は、一人1篇(共同執筆可)とし、未発表の論文とする。
- ②応募論文は返却しない。
- ③別紙の「平成23年度学生懸賞論文応募票」を添付して提出すること。
- ④インターネットからの「コピー&ペースト」または参考文献からの引き写しは論文とは認めない。

■執筆要領

- ①論文には表紙をつけ、論題のみを記入。なお、表紙は枚数に含まない。
- ②パソコンまたはワープロ(A4用紙)で作成し提出すること。
和文:1行40字×40行、8,000字~16,000字以内。(A4用紙5枚~10枚程度)
英文:横書き・ダブルスペースで1行70字×28行、上記字数に該当する程度。
中国文、韓国文の場合は、1行40字×40行、上記字数に該当する程度。
- ③和文以外の場合は和文で作成した内容の要約(400字~800字程度)を別紙にて提出すること。ただし、この要約は枚数に含まない。
- ④文献等からの参照箇所や引用には必ず注番号を付け、出所を明記する。
●単行本や雑誌等の文献から引用した場合、出典(著者名・タイトル・発行所名・発行年月・ページ等)を明記すること。
●ホームページ上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記すること。
- ⑤注のつけ方については、別刷りの手引きを配布する。必ず参照すること。
- ⑥図表等は枚数に含まない。それらを引用した場合、出所を明記すること。

不明な点はお問い合わせください。

奮
っ
て
ご
応
募
く
だ
さ
い

→ 本学学生

2 図書館ガイダンスの案内

図書館では新入生を対象とした「図書館ガイダンス」、主に2年次以上を対象とした「ステップアップガイダンス」を今年度も実施します。
図書館活用法をマスターして、充実した大学生活を送りましょう。

●〈新入生対象〉図書館ガイダンス

実施時期	4月中旬~5月末まで
内 容	利用案内プレゼンテーション、 地下書庫見学、各自で館内散策

●ステップアップガイダンス

実施時期	5月下旬~
内 容	雑誌記事・論文の探し方、新聞記事の探し方など データベースを使った資料収集

ガイダンスに関するお問い合わせは「図書館2階レファレンスカウンター」まで

→ 卒業生・保護者・一般利用の方

3 図書館カード発行のお知らせ

図書館カードの発行を希望される方は、以下の要領で発行手続きをお取りください。

	卒業生・保護者	一般
カードの種類	図書館カード	一般利用カード ※貸出専用カード
手続き期間	2011年4月1日~ 2012年2月29日	2011年 4月1日~5月31日 10月1日~31日
手数料	なし	1,000円
受付時間	月曜日~土曜日 9:00~21:00	
必要書類	運転免許証・健康保険証など	

※すでに卒業生カードをお持ちの方は、カードの更新が必要です。
手続き期間中に、卒業生カードと上記必要書類をお持ちください。

※一般利用カードは、貸出専用のカードです。入館ゲートを通過することはできません。入館の際には毎回、申込書の記入が必要となります。

※カードは、今年度に限り有効です。

入館者数・
貸出冊数統計

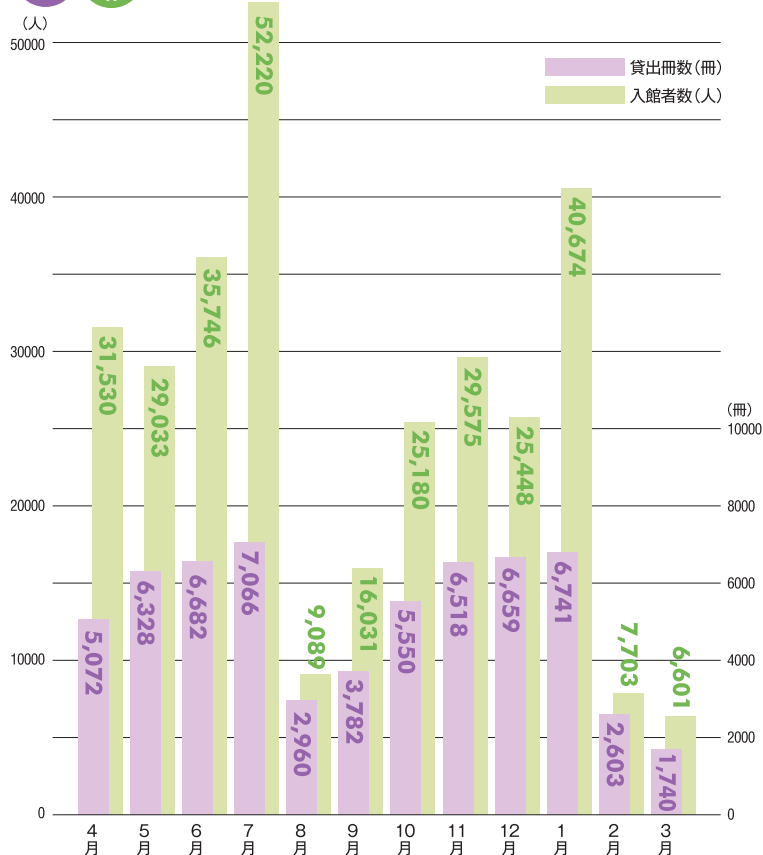
平成22年度 利用統計

過去3年間減少していた入館者数が、平成22年度は久しぶりに上向きしました。試験期間の利用が特に多かったことに加え、秋に九州地区大学図書館合同キャンペーンの一環として図書館イベント「Library Lovers」を行なったことも入館者増の理由の一つであると、嬉しく思っております。

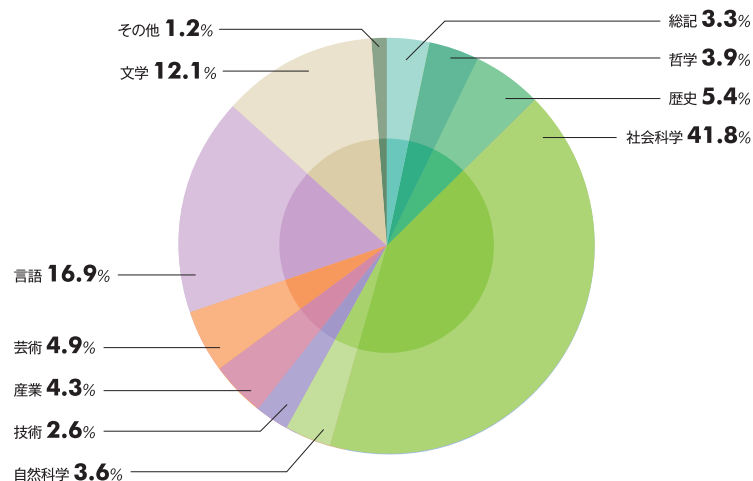
また年間の貸出冊数も、入館者の増加に伴って過去5年間の中で一番多いという結果となりました。特に社会福祉学部は、平成21年度の平均6.5冊から大きく伸びています。

今年度も、更に多くの方に利用していただけるよう、図書館員一丸となってさまざまなことに取り組んでいきたいと思ひます。

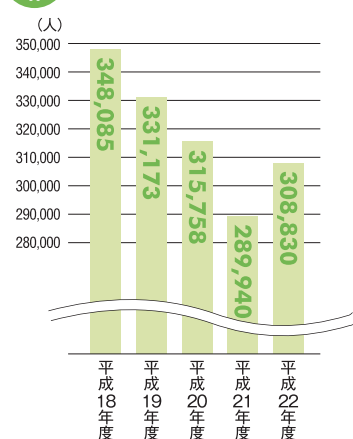
月別入館者数／貸出冊数



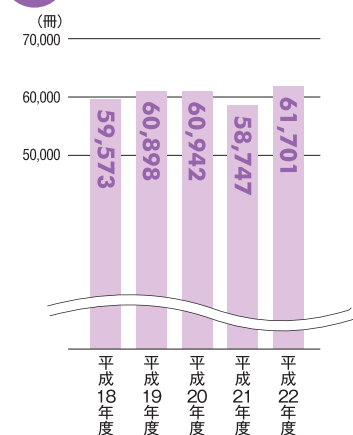
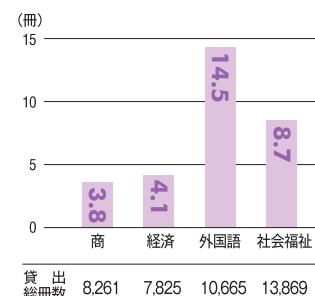
分野別貸出比率



入館者数 (過去5年間比較)



貸出冊数 (過去5年間比較)

学部別一人あたりの
貸出冊数

※商学部および社会福祉学部は、
第一部・第二部をあわせた数値

(平成23年3月31日現在)

過去3年間減少していた入館者数が、久しぶりに上向きしました。



学習環境・学習支援

はじめに

文部科学省より『大学図書館の整備について(審議のまとめ)』⁽¹⁾が公表されました。大学図書館に求められる機能・役割のなかで「学習支援」について言及があります。

【以下引用】 最近の大学においては、学生が自ら学ぶ学習の重要性が再認識され、その支援を行うことが大学図書館にも求められている。近年、整備が進められているラーニング・コモンズ、図書館職員等によるレファレンスサービスや学習支援は、このような要請に応える方策といえる。

とありますが、レファレンスサービスはまがりなりにも継続的にやってきましたし、レファレンサーの養成が課題でもありました。本稿では、新しい概念である「ラーニング・コモンズ」に焦点をあてて既存施設の現状、機能、私見などをまじえて報告とします。

ラーニング・コモンズの妖精？要請

ラーニング・コモンズについて、まずは本誌『大楠』の前号(47号)館長エッセイで、その理念、いま設置されている大学、今後の勉強課題とせねばならないことが語られています。日本に紹介されたのは2006年の米澤論文⁽²⁾によります。2007年にはお茶の水女子大学⁽³⁾に設置され流行に火がついた感があります。米澤によれば、①移動可能なパーティションなどによるフレキシブルな空間 ②グループ学習室、グループ・ワークステーション、プレゼンテーション室などの共同作業向きの場所 ③カフェやラウンジなどの社交的な施設 となります。

さて、本学の施設はどうでしょうか。20年前に設計されたものですが、フロア内に次のようなガラス戸で区切られた施設があります。

- 丸テーブルを配置したスタディールーム(58席100㎡、BGM、おしゃべり可:時代の要請でパソコン8台の機能追加)
- グループ学習室3室(24席2室と12席1室)
- パソコン室(パソコン16台:建築当初はグループ学習室)

※パソコンだけでいえば、館内に109台がインターネット、Office機能をもって利用可能です。(うち60台は無線LAN接続)

利用状況は、スタディールームとパソコン室はほぼ満席状態で日々運用されています。申込制のグループ学習室は、ゼミ授業等の利用が主で学生グループのみでの利用は少なめで推移しています。授業で利用の先生方に「場」としての効用を伺ったところ、ガラス張りのなかでの緊張感、図書館全体の研究・学習する雰囲気の中でやれるということ。また、文献検索の容易さ、資料を手にとって意見交換ができることを挙げられています。追加したい機能としては、パソコン、プロジェクターでのプレゼンテーションなどです。これぞ縷々述べてきましたラーニング・コモンズの効用ではないでしょうか。

できることから始める

常々、図書館活動は利用者の目に見えるように、いま句なことは何かをアピールしたいと思っています。まずラーニング・コモンズに似つかわしい施設をアピールするために既存のグループ学習室で、

- ノートパソコンを持ち込めば無線LANが使えます。
- 必要に応じてノートパソコンを貸出します。
- プロジェクターとスクリーンを準備します。

ということを徹底します。こういう方向で学習支援が広がることを願っています。新しい型での授業とのコラボが生まれるかもしれません。

また、最近では全国的にも館内での水分補給について議論が盛んになっていまして、本学でもペットボトルなどキャップがある飲料について、スタディールームにおいては許可することにします。

まとめにきて

かといってこれで思考停止とはいかないでしょう。20年前の設計ではありますが、ある意味、先取りしたような施設があるばかりにフロアの改造、改修を考えることの難しさがあります。前述のお茶の水女子大学のそれが150㎡だそうです。スタディールームが100㎡ですからちょっと面積的に足りません。奥行きのないフロア構造ですから小手先の改修ではどうでしょうか。大胆な発想も求められます。

みんなで知恵を出しあって、これから大学の学習支援はどうあるべきか。図書館はどうかかわれるか考えていきたいです。そこにはこれからの教育スタイルや学生への課題提出の変化があるのかも重要なキーではないでしょうか。

(図書情報課長 津村 秀夫)

参考文献／(1)『大学図書館の整備について(審議のまとめ)』-変革する大学にあって求められる大学図書館像-
平成22年12月 科学技術・学術審議会 学術分委会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm

(2) 米澤誠「動向レビュー インフォメーション・コモンズからラーニング・コモンズへ」-大学図書館におけるネット世代の学習支援『カレントアウェアネス』(289), 9-12, 2006-09-20

(3) 茂田木理子「ラーニング・コモンズの可能性: 魅力ある学習空間へのお茶の水女子大学のチャレンジ」『情報の科学と技術』58(7), 341-346, 2008-07-01

図書館の ドリンク ルールです!



図書館の1階スタディールームで飲み物がOKになる。この図書館史始まって以来の画期的な施策。これで学生さんの利用マナーが少しは改善される。少なくとも私はそう信じている。

最近、館内で私が目にする一部の学生さんは実に堂々としている。机に向かう姿は真剣で、おもむろにペットボトルのフタを開け、クイッと水分補給。その正々堂々っぷりにあっけにとられる私はわれに返り、すかさ

ず言う。「ここは図書館です」その学生さんは私をジーっとみつめるかと思うと、ポカンとしている。私は「まずい、またやった」と反省する。そうです。「ここは図書館です」は注意になっていない。館内で飲むのをやめてほしければ、「ここは図書館なので飲み食いしてはいけません。なぜなら、本に食べかすや飲みこぼしでしみがつき、それはカビや害虫の温床となり、大切な資料を後世に残すことができなくなるからです。これは本学図書館のルールです」まで言わなければならない。雰囲気気づいてよ〜、常識でしょ〜、と思うのは、図書館員のエゴでしかない。と学生さんを見ていて私が感じていることだ。

そこで、図書館のスタディールームでのみ飲み物OKという今回の施策。マナー改善を目的とするだけでなく、そもそも水分補給のために図書館を出なければならない利用する側の手間を省けると信じて考えた最

善の策なのだ。しかし、これは試行実験的にやってみようと考えられたこと。試してみないと、うまくいくかどうかの判断もつかない。この施策によりマナーが改善されなければ、当然また飲み物全館禁止となる。

勉強の合間の一服(水分補給)には、図書館備え付けのウォータークーラーじゃ物足りない。やっぱりジャスミンティーじゃないと。という私みたいなあなたに1階のスタディールームで水分補給される際のルールをお伝えしたい。

- (一) 資料、パソコンから離れ、
- (二) 決してこぼさないようクイッと飲むこと。
- (三) 飲んだらフタを閉め、机の上には置かないこと。

このドリンクルール、ゆめゆめお忘れなきよう……。

(雑誌係 北原かおり)

図書館

シネマ



今年も「図書館シネマ」を開催いたします

新入生のみなさん、図書館で「映画を観て語り合おう!」をコンセプトに映画上映会を開催しています。地下ホール入り口では毎回、上映作品に関連する資料を展示します。

学生、教職員はもちろん一般の方もどうぞ遠慮なくお越しください。来場者にはもちろんスタッフオリジナルしおりをプレゼント♪

春のラインナップ



4/28 (木)
14:40~(110分)
アヒルと鴨の
コインロッカー
(2006年 日本)



5/20 (金)
13:00~(62分)
ムーミン谷の彗星
(1992年 日本)



6/7 (火)
13:00~(70分)
英語落語
(2005年 日本)
(日本語字幕あり)



6/22 (水)
14:40~(113分)
父と暮せば
(2004年 日本)



7/7 (木)
14:40~(130分)
海角七号
(2009年 台湾)

映画は楽しい!
みんなで見れば
もっと楽しい!



「らいぶらりニュース」 見てください!

新着本の紹介や図書館からのお知らせ、

開館カレンダーなどを掲載しています。

各カウンター付近に配布用として置いてありますので、ぜひ手にとって見てください。

毎月1日
発行

図書館日誌

2010年12月～2011年3月まで

図書館行事

- 12月15日・学生懸賞論文表彰式
- 12月21日・図書館委員会
- 12月23日・休館(天皇誕生日)
- 12月26日～1月4日・休館(年末年始休業)
- 1月10日・休館(成人の日)
- 1月15日16日・休館(大学入試センター試験)
- 1月25日・図書館委員会
- 1月31日～3月23日・春休み長期貸出
- 2月7日～10日・休館(一般入試A日程)
- 2月11日・休館(建国記念の日)
- 2月24日・機関リポトリ講演会
- 3月8日・休館(一般入試B日程)
- 3月10日・図書館委員会
- 3月21日・休館(春分の日)
- 3月31日・休館(年度末処理)

見学者・団体

- 12月10日・熊本国府高等学校(31名)
- 1月18日・上天草高等学校(44名)
- 2月23日・阿蘇清峰高等学校(10名)
- 2月24日・上天草高等学校(28名)
- 3月14日・熊本信愛女学院高等学校(48名)
- 3月16日・大津高等学校(127名)

編集後記

3月に発生した大震災により被災された皆様へ、心より
お見舞い申し上げます。

図書館界でもすでに全国各地で様々な支援体制がとら
れていますが、今後は“情報”、“ネットワーク”を活用した
復興に向けた支援も、図書館として微力ながら行ってい
ければと思います。

今回は「新聞」を特集のテーマに取り上げました。今後
は電子資料の普及がさらに進んでいくと思われますが、
図書館職員としては“紙”のよさも忘れないで欲しいと思
います。(Y.N)

熊本学園大学 図書館報

大楠 第48号
2011年4月15日

編集・発行／熊本学園大学附属図書館
〒862-8680 熊本市大江2丁目5番1号
TEL (096) 371-8047(直通) FAX (096) 362-5967
<http://www.lib.kumagaku.ac.jp/>

携帯電話から本学図書館の
蔵書検索ができます。



機種によっては、
正しく表示されない場合が
ありますのでご了承ください。